

## 湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

修士2年 佐々木 聡

### 1. 活動内容

International Society for Third-Sector Research 12th International Conference に於いて、「Elaborating upon the Social Enterprise Spectrum Through the Perspective of Ethical Capitalism」と題し、full-paper形式にて「社会的企業」研究の理論的枠組みについて研究発表を行った。

### 2. 活動日程及び会場

学会開催日程 2017年6月28日～7月1日

論文発表日時 2017年6月30日午前9:00～10:30

会場 Ersta Sköndal University College (スウェーデン、ストックホルム市)

### 3. 学会の概要

International Society for Third-Sector Research 学会はサードセクター、特に市民社会(civil society)、慈善活動(philanthropy)、非営利組織(nonprofits)を専門に研究する組織として1992年に設立され、隔年で学会を開催しているほか、専門の学術誌 Voluntas を発行している<sup>1</sup>。今回の学会には60ヶ国超から700名超の参加があった(主催者発表)。

### 4. 発表の背景

広く「公益の創出に営利事業の手法を用いる」とされる「社会的企業(Social Enterprise)」は市場及び国家の失敗を補完するサードセクターの一員として1980年代より実務及び学問の両面から議論されている。対象の「公益」が貧困解消から環境保全まで多岐に渡る一方、その創出に取り組む「営利事業」の主体は協同組合、非営利組織から株式会社まで多様であり、そこで用いられる「手法」も「非営利団体による物販」から「株式会社の社会的責任」まで幅広い。これら多様な形態で出現している社会的企業を扱う理論的枠組みは、これまで多様性を地域性に還元して記述するものが主流であったが、近年、それら地域性に基づく既存の理論枠組みで捉えきれない新たな社会的企業の形態がグローバルに出現している。それら新たな形態をも包含し、社会的企業全体を横断的に記述する枠組みが求められており、本研究では理論研究及び実証研究から、その枠組みの提出を行った。

### 5. 発表内容

本研究では Dees(1996)<sup>2</sup>による社会的企業スペクトラムを、社会的企業の「事業体の経済構造」の視点

から発展的に記述し直すことで、異なる地域の社会的企業を横断的に比較検討する基盤を構築した。具体的には第一に、Dees が定義した「純粋商業活動」「純粋慈善活動」およびその「ハイブリッド化現象」を歴史的、社会的な背景に遡って理論的に定義し直すことで、問題の所在及び性質を明確化した。第二に、学術文献データベースを用いた検索によれば、過去に「社会的企業」を論じた英語の査読論文は 2015 年 8 月現在で 639 件存在したが、ここから第一段階で整理した概念に基づきランダムサンプリングによる内容分析を行い、扱われている社会的企業の性質を抽出し分類した。これら第一、及び第二段階の研究により、Dees(1996)の社会的企業スペクトラムがより精緻に描き出され、従来、単に社会的企業と一括りにされていた企業群が、実際には 1) 国家の責任とされている領域に市場経済を部分的に導入する活動（国家の失敗の改善）、2) 市場経済に制度的な手法で社会性を織り込み、市場原理の範囲内で市場の失敗を軽減する活動（市場の失敗の改善）の 2 つに大別でき、両者を混同すべきでないことが明らかとなった。同時に、近年新たに出現した社会的企業群には、従来の社会的企業にはない「利他的資本活用」の特徴があることが明らかとなった。第三に「利他的資本活用」の特徴を持つ社会的企業の代表事例である米国の Benefit Corporation 法人群について、データベースからのランダムサンプリングをもとにインターネットで情報検索を行い、その事業内容の傾向を分析し明らかにした。その結果、「利他的資本活用」を行う社会的企業は、社会問題に直接取組むよりも、通常の事業をより倫理的に遂行することで社会性を求める傾向が強いことが明らかとなった。第四に、「利他的資本活用」の可能性に関わる実務家 3 名へのインタビュー調査から、「利他的資本活用」の特徴を持つ社会的企業を分析するためには、従来の分析軸にはない「投資家の経済構造」に着目すべきことが明らかとなった。以上四段階の研究により、社会的企業を横断的に分析するための枠組みが提供され、近年新たに出現した社会的企業群の特徴が明確化し、かつ、その分析を今後深めていくための分析軸が設定された。

## 6. 活動の成果

学会発表ではこの分野を研究する各国の研究者から有益な指摘を得ることが出来た。具体的には、社会的企業を分類する部分の論理展開について、追加で考慮すべき既存の先行研究の存在等の指摘を受けることが出来た。また、英語を母語としないが故に用語が不明瞭な点について改善案を得た。このほか、テーマを同じくする他の発表へ参加し、質疑応答に加わることで自説の説明を行い、結果としてこの分野を代表する論者と議論し、具体的に面識を得ることができた。今後は得られた指摘事項をもとに論文を加筆修正し、速やかに学術雑誌へ投稿する。

## 7. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面のご支援を頂きました湘南藤沢学会に深く御礼申し上げます。

---

<sup>1</sup> 詳細は次の URL を参照。 <http://www.istr.org/>

<sup>2</sup> Dees, J. G. (1996). Social enterprise spectrum: Philanthropy to commerce. Harvard Business School Cases.